

## 2 研究の実際

## (4) 考察の視点

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成 29 年 7 月）、『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成 29 年 7 月）の目標において、「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して」<sup>(1)</sup>とあります（括弧内は中学校学習指導要領における表記）。本研究もこの目標に則った形で進めています。そこで、「自己（人間として）の生き方についての考えを深める」ことを、もう少し具体的に「自己のこれまでの価値理解を修正したり、強化したりする」ことと捉えて検証をしていきたいと考えました（括弧内は中学校学習指導要領における表記）。以上のことを踏まえ、本研究の考察の視点を以下のように設定しました。

視点Ⅰ・・・児童生徒は多面的・多角的に価値を捉え直していたか。

視点Ⅱ・・・児童生徒は自己のこれまでの価値理解を修正したり、強化したりできていたか。

視点Ⅰ 「児童生徒は多面的・多角的に価値を捉え直していたか」について

授業での児童生徒の取組の様子分析及び「ワークシート」の記述分析

- ①他者との対話や交流において、他者の考えに有用性を感じているか。
- ②道徳的価値のよさについて、場面や条件などを基の一つ一つ考えることができたか。

視点Ⅱ 「児童生徒は自己のこれまでの価値理解を修正したり、強化したりできていたか」について

「事前・事後アンケート」「ワークシート」の記述分析のポイント

- ①「ワークシート」において、学んだ価値について根拠のある自分の考えを示しているか。
- ②「事後アンケート」における児童の意識調査において、回答の理由を明確に示しているか。

## 《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 平成 29 年 7 月 p.16  
『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 平成 29 年 7 月 p.13